

QUICKLINK

IDS INTELLIGENT DEPOWER SYSTEM

CABRINHA

2012 QUICKLINK IDS

コントロールシステム・ユーザースマニュアル

日本語

警告 警告

安全のために必要な以下の内容に同意できない場合、この商品の使用を禁じます。また以下の内容は不定期に変更されることがあります。最新の情報をアップデートするために、絶えずカブリナ・カイトサーフィンのホームページWWW.CABRINHAKITES.COMをご覧ください。

使用者が18歳以下の場合、両親または保護者に以下の警告やインストラクションに関する項目とユーザーマニュアルを読んでもらう必要があります。レッスンを受け、インストラクターかマニュアルを読んだ者の監督下でしかこの製品を使用できません。

この製品にはその使用に伴い、予期せぬ危険が起こる可能性があります。カブリナ・カイトサーフィンおよび販売店は、当製品以外の資産の損失や他資産の消費に生じた損失、あるいはその他の経済的損失を含め、しかしそれに限定されず、いかなる特別的、間接的、付随的、結果的、法定的もしくは模範的損害に関して、契約行為であったか、不法行為や過失があったか、厳正な賠償責任であったかを問わず、一切責任を負わないものとします。

カイトサーフィンは激しいスポーツです。パワーカイトやそれにつながるライン、コントロール・エクイップメントは、使用者自身や周りの人々に危険を及ぼす可能性があります。カイトサーフィンを行う際は真剣に、慎重に取り組み、経験が浅いライダーはプロのインストラクターや経験豊富なカイトボーダーのレクチャーを受けることをお勧めします。カイトの使用方法が正しくない場合は、ライダー自身や周りの人々に深刻な怪我を負わず、または最悪の場合には死に至らしめる可能性があります。電線や空港、建物、道路、樹木の近くではカイトを使用しないでください。また、カイトのフライングラインが人や物に触れないようご注意ください。カイトは常に見通しの良い場所でご使用ください。風や天候に留意し、特に、オフショアやオンショア、強風時には注意が必要です。陸上で完全にカイトの操作ができるようになるまで、水上でカイトを使用しないでください。ライダー自身と周囲の人の安全を守るため、カイトの操作に慣れるよう陸上で十分に練習を行ってください。カイトを使用する際の安全面の責任は、すべてライダー自身にあるということを絶えず頭に入れておいてください。このスポーツを練習する際には、自己の限界を留意し、無理をしないようご注意ください。海上でカイトを使用する際には、安全上、必ず保護防具や浮力体を身につけ、カイトとライダー自身をほどけないほどしっかりと繋がないようにしてください。カイトを飛行目的、浮力体として使用しないでください。



お勧めのカイトボーディング練習方法：

カイトボーディングはいろいろな種目でレベルに応じて楽しめる多様なスポーツです。しかし、他のスポーツと同様に先天的な回避しがたいリスクも伴います。カブリナカイトを使用する前に、下記の安全上のキーポイントを覚えておきましょう。

- ・ カイトサーフィンには**危険を伴う**スポーツで、カイトサーフィンの使用者は人体のあらゆる箇所に深刻な怪我をする怖れがあることを理解してください。
- ・ カイトサーフィンをする際に怪我をする**危険性は非常に高く**、カイトサーフィンを始めようとする使用者はそれを理解しなければなりません。
- ・ 未成年は必ず監督者のもとでこの製品を使用してください。
- ・ 初心者はまずレッスンを受けることを強くおすすめします。
- ・ 使用する前には常にすべてのラインやキャンピー、ブラダー、ネジ、その他全般に、擦れや引き裂けの兆しがないかどうかチェックしてください。
- ・ 擦れや引き裂けの兆しが見られた場合、使用前にただちにリペアやパーツ交換を行ってください。擦れや引き裂けに関する質問がある場合は、地元販売店にお問い合わせいただくか、ホームページ www.cabrinhakites.com をご覧ください。
- ・ ライダー自身や他の人が怪我をする可能性がある状態やカイトボーディングのいかなるパーツを破損する可能性がある状態を**絶対に**避けてください。安全に自力で岸に帰って来られる状態を保ってください。
- ・ 正規販売店で購入した正規製造パーツを使用してください。
- ・ 海の状況やカレント、天気予報など、コンディションに関して勉強し、そういった情報を出艇する前に必ず確認してください。オフショアやオンショア、強風でセイリングする際には注意が必要です。
- ・ 初めてのポイントに行った場合、出艇する前にまずはそのポイントに慣れることを心掛けてください。危険なものがないかどうか、地元のライダーに訊ねましょう。
- ・ 遊泳者や小さな子供など、他のビーチ使用者に注意してください。ボードとカイトやラインを常にコントロールできる状態に保ち、ビーチや海上で風に吹かれて飛ばされないようにしてください。
- ・ 常に十分な浮力体をつけてください。ウエットスーツやUV効果のあるトップスなど、適正なスーツを身に付けて出艇してください。ヘルメットの着用を強くおすすめします。
- ・ 絶えず出艇あるいはビーチに戻ってくるタイミングを他の人に知らせてから行動しましょう。セイリングパートナーをみつけ一緒にビーチにいきましょう。
- ・ コンディションの変化(風が落ちる、風や波が上がるなど)に注意し、変化の兆しが見えたときには、常にビーチに戻ってください。
- ・ ビギナーのうちは自己の限界を超えるコンディションでカイトボーディングしないでください。
- ・ この製品は改造や変更をしないでください。
- ・ この製品は海上または雪上でカイトボーディングすることだけを目的としてデザイン、製造されています。
- ・ この説明注意事項をこれからも参考にできるよう保管しておいてください。
- ・ このマニュアルにはカブリナカイトを陸上、水上、雪上で扱ううえで大切な安全面を明記しています。

警告 警告

雪上で使用する際の注意

- カイトボーディングの練習方法で留意しなければならない点は雪上での使用も含まれます。雪上でカイトを使用することがあるライダーは以下を熟読する必要があります。
- このカイトは雪上でのアトラクション製品として、完全にコントロールされ、しかるべきマナーのもとで広い雪の積もった広場で使用されなければなりません。
- このカイトを飛行目的で使用しないでください。峰や崖、斜面から上昇する目的でこのカイトを使用しないでください。
- ライダーがランディングする際に衝撃を受けるような、いかなるエアも行わないでください。
- 平坦でない地形やアイスバーン・コンディションなど、あらゆる山岳地で使用する際には十分な注意を払う必要があります。山岳地の風は非常に不安定で、不意に風向きや強さが変わることがあります。
- この製品を電線やライフライン、樹木、他の障害物のある所で使用しないでください。こういった障害物との接触は深刻な事故に繋がる恐れがあります。
- 常に保護用のギアを身につけて使用してください。特にスノーボード専用のヘルメットの装着を強くおすすめします。
- カイトの飛行中は車やスノーモービルなど、それが動いているか否かに関わらず、動く物とライダーを接続しないでください。
- 常にカイトを十分にコントロールでき、人や障害物を避けたり止まれるように保つ必要があります。
- スノーカイト：風下や下り坂にいるライダーには権利があります。自己の責任において他の人を回避してください。
- スノーボード：風下や下り坂にいるライダーには権利があります。自己の責任において他の人を回避してください。
- 他の人を邪魔をしたり見えない所で停止しないでください。
- 動き始める前には風上や斜面上、回りに人がいないことを確認してください。
- 常に流れ止めを使用してください。流れ止めを外す必要がある場合は、バインディングを雪につきさすようにしてスノーボードを山側に置き、ボードが滑らないようにします。
- すべての看板等、掲示物を確認してください。
- 滑走禁止区域で使用しないでください。
- スノーボード：カイトを使用する前には、スノーボードに乗るための知識と安全に着脱できる能力が必要です。
- アルコールや薬の影響がある状況、または体調が優れない場合はスノーボードやスノーカイトしないでください。
- 雪山やスノーボード／スノーカイトのコンディションは絶えず変化します。人造物や樹木、岩、破片、斜面、雪崩地域、クレバス、崖、電線、リフトのライン、ウォーターハザード、太陽が照りつけることによって起る雪面の变化、風や天候の変化など、スノーボード／スノーカイトのコントロールに影響を与えるすべての事項に十分に注意してください。



2012クイックリンクIDS

- 2 イントロダクション
- 3 重要な情報
- 4 風と海面、天候について
- 4 風早見表
- 5 ライダーレベルの認知
カイトボーディングに適した場所
- 6 カイトのケア
- 7 ビーチでのエチケット
- 8 操作ゾーン
- 9 カイトポジション、ゾーンとパワー

コントロールシステム概要

- 10 2012クイックリンクIDS

セッティング

- 11 ラインの長さのチェック
- 12 ラインの長さの調整
- 13 ダウンウインド用ランチング・セッティング
- 14 アップウインド用ランチング・セッティング

操作方法

- 15 クイックリリースシステム
- 16 安全ピン
- 18 バイパスリリーフ
- 19 リコイル
- 20 センターライン調節ストラップ
- 20 クイックリンクのメンテナンス

- 21 IDSランディングライン
- 23 ステアリング

- 24 PAUSE
- 25 ランチング
- 26 ランディング
- 27 リランチ
- 28 チューニング
- 29 専門用語集

イントロダクション



新しいカブリナ・カイトのご購入ありがとうございます。そしてカイトボーディングの世界へようこそ。ご存知のとおりカイトボーディングの楽しさは世界中のあらゆる年齢の人々を魅了しています。もっともダイナミックに急成長している新種のスポーツのひとつということができるでしょう。

注意!

カイトボーディングはしっかりとその特徴を理解し、節度をもって行われなければならないスポーツでもあります。そのためにカブリナではこのユーザー・マニュアルを配付しています。これは新しいカイトを購入されたライダーの方がカイトに対する知識を広め、安全に使用するために必要なものです。さらにセッティングやメンテナンスなど、コントロールシステムに対する知識を深め、カイトを水上で楽しく、長い間使っていただくためのインフォメーションも多く記載してあります。このカイトに適應するコントロールシステムに関してはカブリナ・カイトのウェブサイトwww.cabrinhakites.comをご覧ください。

実際にカイトをご使用になる前に、このユーザー・マニュアルのすべてのページを熟読してください。このマニュアルはカイトボーディングのインストラクションを目的につくられたというより、補足的な説明をしているものですが、ライダー自身および回りの人の安全のためにも必要な事柄が記載されています。

重要な情報

カイトボーディングはいろいろな種目で、レベルに応じて楽しめる多様なスポーツです。しかし他のスポーツと同じように怪我をするリスクを伴っています。これからカブリナ・カイトを使用する際に覚えておかなければならない、安全上のキーポイントを紹介していきます。

- カイトやオーバーライド2、ハーネスループ・クイックシステムといった安全システムを使用し、慣れ親しんでください。
- パワードライブIDSは添付の説明に基づいてセットし、また使用してください。
- カイトに適応するのはクイックリンクIDSです。
- 常にバイパスリリーシュを用いて使用してください。
- ライダーはクイックリリースを用い、カイトおよびコントロールバー、ラインと瞬時に離れることができるようにしてください。
- カイトを飛行目的で**使用しないで**ください。
- テンションのかかった状態にあるすべてのラインに決して**触れない**でください。ラインにテンションのかかった状態のカイトに触れないでください。
- 空気の入った状態で使用していないカイトは、必ず砂や何か重い尖っていない物を置いて安全を確保してください。充分と思われる以上に重たい物を置くことをお勧めします。(カイトの取扱い、情報の項参照) ライダーがいなくても、空気の入ったカイトは飛ぶ恐れがあるので、充分に自己や周りのものに注意を払ってください。突然カイトが飛行してしまった場合、周りの人に深刻な怪我を与え、死に至らしめる可能性があります。
- 空気の入ったカイトに対する十分な訓練をしていない人に、ギアを貸さないでください。使用者は必ずこのユーザーマニュアルを熟読し、すべての項目に同意する必要があります。
- フライイングラインや安全システム、カイト、ボードなどのギアは、きちんとセッティングされていること、きちんと作動することといった項目を、海上に出る前に必ずチェックしてください。

安全のためのギア

以下のプロテクション用ギアの使用を強くおすすめします：

- カイトボーディング専用ヘルメット
- ライフジャケット、インバクトベストなどの浮力体
- ネオプレン製ウエットスーツ
- グローブ
- ブーツなど足を保護するもの
- 目を保護するもの
- 安全用ナイフ
- 日焼け止め

重要な情報

風と海面、天候について

- ・ 風のパワーを過小評価しないでください。
- ・ 不意の天候の変化に気を付けてください。
- ・ オフショアやオンショアのコンディションでカイトボーディングしないでください。
- ・ 強風やガスティな風でカイトボーディングしないでください。
- ・ 特にビギナーのうちは波のあるコンディションでは注意が必要です。
- ・ 潮の満干やカレントを調べましょう。
- ・ 自己のレベルを認知しましょう。自己の限界を超えるコンディションではカイトボーディングをしないでください。
- ・ 外気温や水温について前情報を得て適切なスーツを身に着け、自然要素から身を守りましょう。
- ・ 嵐のなかでこの製品を使用しないでください。
- ・ 必要に応じて風速計を用いたり、気象情報センターを利用し、コンディションを把握しましょう。
- ・ オーバーサイズになるカイトを使用するのはやめましょう。風の早分かり表を使い、最適なサイズのカイトを選びましょう。常識の範囲内で無理をせず、サイズの決定に不安が残るときには小さいサイズを選びましょう。
- ・ カイトに装備したクイックリリース(QR)とオーバーライド2・システムを体力的または身体的に操作できる状態にあることを確認してください。カイトとコントロールシステムは体重75kgのライダーを基準にデザインされています。

75kgを超えるライダーは軽量のライダーに比べてQRを作動させるために、より多くの力が必要となります。さらに風の強さとQRを作動させるための力にも関係があります。体重と安全システムとの関係について、カブリナ正規販売店などにアドバイスを求めてください。

ライダーのレベルの認知

- ・きちんとしたインストラクションなしでカイトボーディングしないでください。
- ・一人でライディングは禁止です。
- ・ランチングやランディング、ライディングを行う際にはパートナーと行うか、ビーチで絶えず観察してくれる人が必要です。
- ・この製品を使用する前に良好な健康状態である必要があります。
- ・実際のカイトを飛ばす前に、サイズの小さい『トレーニング・カイト』でカイトを飛ばす練習を行います。
- ・『トレーニング・カイト』で充分に練習を重ねることによって、より安全に上手にカイト操作を行うことができるようになります。
- ・この製品を水上または水際で使うためには上手に泳げなければなりません。
- ・自己レベルには風と海面のコンディションと大きな関係があるということを理解してください。コンディションに合わせて正しい道具のチョイスをしましょう。
- ・泳いで帰れないほど沖ではカイトボーディングしないでください。
- ・絶えず体力の温存をはかってください。疲れ切る前にカイトボーディングのセッションを終了してください。
- ・実際にカイトボーディングを行う前に安全上の予防策を頭に入れておいてください。セッティング、ランチング、ランディング、フライングの方法、および水上で使用する際の注意、レスキューの方法など。
- ・カイトをランチングする前に安全システムを理解しておく必要があります。
- ・カイトを海の近くで使用する前に、自己レスキューの方法を身につけてください。
- ・インフレーターカイトを扱ったことがない人にランチングやカイト・キャッチをさせないでください。そういった人や回りの人、ライダーに怪我を負わせてしまう恐れがあります。
- ・安全上の責任は全てライダーにあります。

カイトボーディングに適した場所

- ・地域の法律や決まり、規則に従い、使用可能な場所でこの製品を使いましょう。
- ・天候やローカルルールについて、地元のライダーの話を聞きましょう。
- ・カイトをランチングさせる前に必ず周囲をチェックしてください。
- ・この製品を使用する際にはランチングやランディングに広いスペースを必要とすることを理解してください。
- ・カイトを使用する際、ライダーの左右、風下に少なくとも100mのスペースが必要です。特に風下には十分にスペースをとってください。
- ・特にランチングする場所では風向きに絶えず注意する必要があります。
- ・浅いリーフや飛び出しているリーフ、岩のある場所で行わないでください。
- ・潮回りに注意してください。干潮時にはビーチの様子が変わり、今までになかった障害物があらわれる可能性があります。
- ・電線や電柱、木、人、ペット、建物、車、道路、尖ったものがある所、空港の近くではカイトを使用しないでください。
- ・人の多いビーチや波打ち際は使用しないでください。
- ・歩道や人の通る場所にラインが渡らないようにしてください。
- ・ライダーとカイトの間を他の人が通過しないようにしてください。
- ・ウインドサーフィンやジェットスキーなどの他のマリンスポーツを行っている人、海水浴を行っている人、浮遊物に対して十分に注意してください。
- ・ランチングの前には、ランチング場所以外にも安全にランディングできるスペースを確認してください。

重要な情報

カイトのケア

エクストリーム性の高い性質を持つカイトボーディングでは、カイトの運搬やセッティングの際にも安全ギアと同様にすべてのギアをしっかりと扱わなければなりません。

セッションの準備

- 安全のための道具（ヘルメットなど）が壊れていないか、通常の動きをするか確認しましょう。
- カイトやコントロールシステムをこまめにチェックし、空気もれや引き裂け、キャンピーやパテンの擦れ、安全システムの異常をいち早く発見するようにしましょう。フライングラインにも擦れやほどけない結び目がないことを確認します。これがフライングラインの寿命に影響を与えます。プライダルラインとプーリーにも擦れがないかどうか点検し、必要に応じて新しいものと交換してください。
- アスファルトやセメント、砂利など、摩擦の大きい所でセッティングするのは止めてください。道具を痛める恐れが多分にあります。砂や芝生の上でセッティングするのが理想です。摩擦の大きい所でセッティングした際に生じたダメージは保証範囲外となります。
- キャンピーを破いたり、パテンやリーディングエッジの空気もれを起こすような、尖ったもののある所でセッティングしないでください。
- フライングラインを尖った物のあるところで広げないでください。
- セッティング中は砂や砂袋でカイトを安全に保管してください。カイトを傷つけるような尖ったものや岩、摩擦を起こすようなものからカイトを遠ざけてください。

セッションの途中で

- 長時間、空気を挿入したカイトを人の手から離れた状態でビーチに放置しないでください。風がシフトしたり風向きが変わることによって、カイトの安全性が保たれなくなり飛んでいってしまう恐れがあります。
- 空気を挿入した状態のカイトを（重りを乗せていても）長時間ビーチで風に吹かれた状態にしないでください。こういった状態では、トレーリングエッジが絶えず風に吹かれた状態となり、カイトの素材を痛め、カイトの寿命を短くします。もし長時間ビーチにカイトを置かなければならないときは、パテンやトレーリングエッジな

ど、カイトの広範囲に砂を乗せバタつきを最小限にとどめた状態にしてください。また岩など尖ったものを重しに使わないでください。

- 長時間、太陽光線のもとにカイトを広げておかないでください。セッションの間にはカイトを安全に保管できる日陰を探してください。使用していないときは片付けましょう。

正しい収納方法

- カイトを丸めたり折り曲げるときは、必ずよく乾燥させてください。濡れた状態での折り曲げや丸めは、カイト劣化の原因となります。
- 収納前に、カイトと付属品一式を真水でよくすすぎ、乾燥させることをお勧めします。
- 収納前には異物や砂を取り除き、カイトをきれいな状態にしてください。
- カイトがきれいな状態で乾いたら、購入時に入っていたバッグに入れ、乾いた涼しい所に保管してください。
- カイトが入ったバッグの上に重たいものを置かないでください。
- 空気を挿入したカイトを車の中や車上の収納ボックスに入れたままにしないでください。気温の変化によってカイトが破裂する恐れがあり、これによって内蔵ブラダーは深刻なダメージを受けます。
- 真水を溜めたバケツにコントロールシステム全体（ラインをバーに巻いたまま）を5分つけるという方法で、使用することにコントロールシステムを洗ってください。その後、完全に乾かしてください。
- コントロールシステムが完全にきれいで乾燥したら、乾燥した涼しい場所に保管ください。

ビーチでのエチケット

ビーチや海面を他のユーザーと共有するために考えられる基本的なエチケットです。

安全

- ・ このマニュアルやその他製品についてくるすべてのマニュアルを熟読しましょう。
- ・ 使用ビーチに掲げられている安全やルールに関する看板や掲示物をよく読み、それに従いましょう。
- ・ 新しいポイントでランチングする前に地元のカイトボーディング協会やショップに行きましょう。看板や掲示物にない地元のルールや規則がある可能性があります。
- ・ 一般的な安全認識に従いましょう。
- ・ バーやカイトなど、他の人の道具に許可なく触ったり、チューニングをしたりしないようにしましょう。
- ・ 常にカイトは砂や砂袋を使って安全を保ってください。ライダーが操作していないカイトは危険です。
- ・ 空気を入れた状態のカイトをライダーから離れた所に置かないでください。風向きが変わりカイトが不用意に飛んでしまう危険を避けるためです。

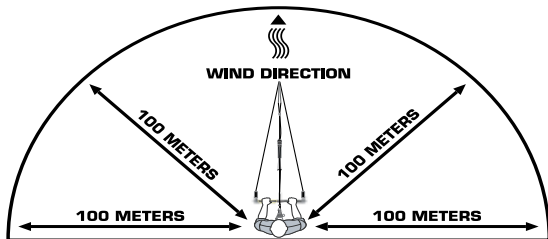
セッティング

- ・ 使う道具だけをセッティングしましょう。使用していないカイトは空気を抜いて、ただちに片付けましょう。
- ・ 十分なスペースがあるところでセッティングしましょう。
- ・ 他のビーチユーザーのことを十分に配慮し、セッティングしましょう。
- ・ 使用時以外はライン類を巻いておきましょう。
- ・ ランチングやランディング、ライディング時には絶えず他のビーチユーザー、海面にいる人のことを配慮しましょう。
- ・ 他のビーチユーザーに譲る心を持ちましょう。
- ・ 常に必要に応じて他のカイトボーダーの助けをかりられるようにしておきましょう。他のカイトボーダーと互いに助け合いましょう。

重要な情報

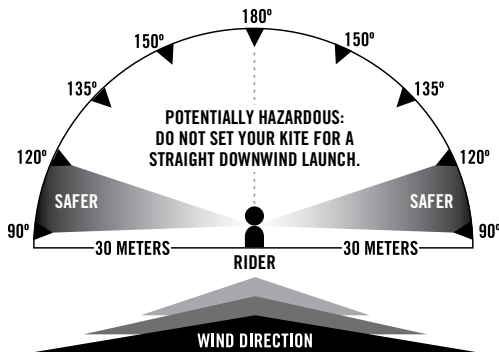
使用可能なエリア

両サイドとライダーの風下側に100mの余裕が必要です。ライダーが他の人、物に対して安全を確保するため十分なエリアがとれない場合は、カイトをランチングしないでください。

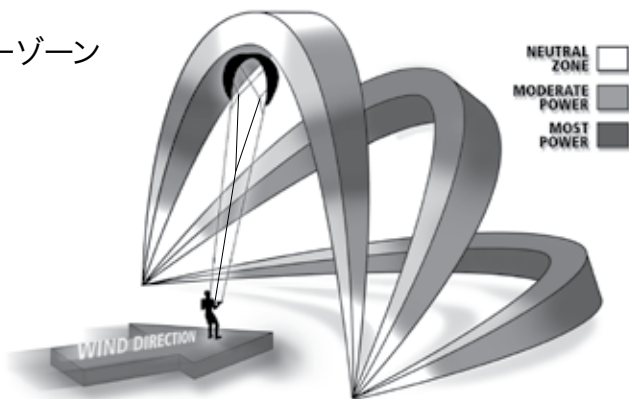


ランチングの準備

- ・ ライダーの左右と特に風下側に100m以上なにもないスペースを確保します。
- ・ ライダーが立つポイントより風下側にカイトがランチングすることを考慮し、道具を置きます。
- ・ **ライダーの真風下の位置からカイトをランチングしないでください。**このエリアのカイトはパワーがありすぎるためライダーや周りに危険を及ぼす可能性があります。周りの安全に十分に留意してください。
- ・ 基本的にライダーが背中から風を受けている場合、真風下は180度の角度となります。ライダーの左右100度の角度で風下側にカイトがセッティングされるようにしてください。
- ・ ランチング時にカイトが風上に向かっていればカイトのパワーは少ないので、安全なランチングに最適です。
- ・ ライダーがコントロールバーを持ち、カイトから30m離れる間、パートナーにカイトを持ってもらう方法が理想的です。
- ・ ランチングはゆっくりと安全に行ってください。カイトのランチング時の角度を考え、**決して真風下からランチングしないでください。**



パワーゾーン



カイトのポジション、ゾーンとパワー

カイトをランチングする前にパワーゾーンに対する知識を知ることは大切なことです。カイトボーディングに関する多くの事故は陸上で起こり、またニュートラルポジションと呼ばれるポジションにカイトがあるときに起こっています。多くの人はニュートラルポジションにあるカイトは安定していると考えています。しかし風は絶えず変化し、それによってニュートラルポジションにあるカイトはリフティングと呼ばれる現象が起こります。カイトへの風が弱まると（またはフォイルに十分な風がなくなると）、カイトはライダーから遠ざかる動きをします。ブローが入るとカイトは突然パワーを生み、そのパワーはライダーにとってはカイトを頭上にキープしておくには強すぎる状態となります。そのためライダーは空中に持ち上げられてしまいます。その結果起こるリフティングは危険です。しかしパワーゾーンについて理解することによってリフティングに陥る可能性をできるだけ避け、陸上でカイトをニュートラルポジションで保たないようにすることができます。

ニュートラル・ポジション / これはライダーの頭上にカイトがあるポジションでニュートラル・ポジション / これはライダーの頭上にカイトがあるポジションです。ライダーがバーを水平に持ち上げれば、カイトはこのニュートラルポジションに向かいます。しかしカイトをこのポジションに保つことは難しいことです。このポジションのカイトは安定し、パワーやライダーを引く力が弱いように感じられるかもしれませんが、ブローが入ると陸上ではライダーがリフティングに陥りやすいポジションでもあります。海上ではボードを手繰り寄せるとき、休憩のために使

われる便利なポジションですが、陸上ではニュートラルポジションでのカイト飛行を極力避けることを強くお勧めします。ランチングの後、いち早く海上に向かうことです。カイトをニュートラルポジションにして長い時間陸上にいないでください。これは危険を伴う行為です。

リフティング / リフティング / リフティングはカイトがライダーの頭上になるニュートラル・ポジションのときに起こります。不安定な風が突然垂直な力を発生させ、ライダーを上空に持ち上げる現象です。

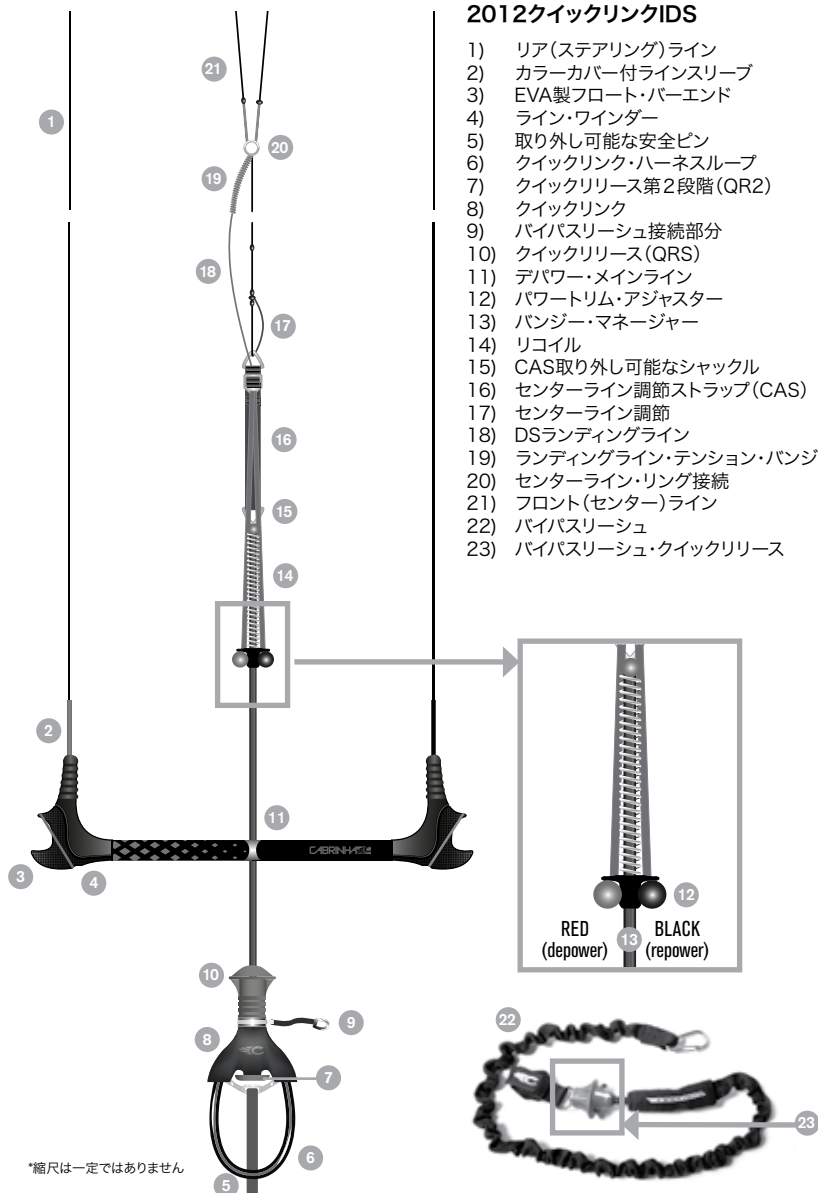
ニュートラル・ゾーン / ニュートラル・ゾーン / ニュートラル・ポジションを中心に左右に幅を広げたエリアです。カイトの飛行を開始するためには、風上方向や風下方向に向けるのが難しいエリアです。この位置にあるカイトはパワーゾーンにあるカイトに比べてパワーも引く力も強くありません。しかし陸上やガスティなコンディションの時は特に、このゾーンにカイトがある場合は注意が必要です。

パワー・ゾーン / パワー・ゾーン / ライダーの前あるいは横に当たるこの位置のカイトは、ニュートラル・ポジションやゾーンと比べ、パワフルです。このエリアにあるカイトは最もパワフルで、ライダーを引く力が強い状態です。このエリアにあるカイトはパワフルで危険を伴うので、練習中のライダーはできるだけこのエリアでのカイトの使用を避けましょう。カイトがこのゾーンにある場合、注意が必要ですよ。

概要

2012クイックリンクIDS

- 1) リア(ステアリング)ライン
- 2) カラーカバー付ラインスリーブ
- 3) EVA製フロート・バーエンド
- 4) ライン・ウィンター
- 5) 取り外し可能な安全ピン
- 6) クイックリンク・ハーネススリーブ
- 7) クイックリリース第2段階(QR2)
- 8) クイックリンク
- 9) バイパスリース・接続部分
- 10) クイックリリース(QRS)
- 11) デパワー・メインライン
- 12) パワートリム・アジャスター
- 13) バンジー・マネージャー
- 14) リコイル
- 15) CAS取り外し可能なシャックル
- 16) センターライン調節ストラップ(CAS)
- 17) センターライン調節
- 18) DSランディングライン
- 19) ランディングライン・テンション・バンジー
- 20) センターライン・リング接続
- 21) フロント(センター)ライン
- 22) バイパスリース
- 23) バイパスリース・クイックリリース



*縮尺は一定ではありません



ラインの長さのチェック

カブリナのコントロールバーにはフライングラインがセットされていますが、海上に出る前に2012クイックリンクIDSのラインの長さをチェックすることをお勧めします。下記の手順で行ってください：

- ・ シート（ロープやコード）の切れ端などを木やフェンスの杭などに巻き付けます。
- ・ シートの端が余るように、シートを木や杭に結び固定します。
- ・ 杭の所からフライングラインを伸ばし、バーから杭を見て、黄色のコントロールラインが左に、黒のコントロールラインが右になるよう、コントロールバーを上向きに地面に置きます。バーと杭の間に障害物がないことを確認してください。フロントラインは4本のコントロールラインの真真中に置くようにします。
- ・ フライングラインにねじれや交差がないことを確認してください。
- ・ フライングラインの端（杭側）を見ると、リア（後ろ）ステアリングラインとフロント（前）デパワーラインにアイレットがあることが分かります。フロントデパワーラインの端には結び目もあり、これはカイトと正常に接続するために必要なものです。
- ・ 杭に結びつけたシートをすべてのラインのアイレットに通します。この時、黄色のラインは左側、黒のラインは右側の位置を保つようご注意ください。
- ・ すべてのラインが輪の内側にある状態で、シートをもやい結びにします。
- ・ コントロールバーの所に戻ります。
- ・ カイトをフルパワー仕様でセッティングするために、センターライン調節ストラップが完全に伸ばされていることを確認してください。
- ・ 杭とまっすぐになるように立ち、後ろに体重をかけながら強くコントロールバーを引きます。
- ・ その際、コントロールバーは肩の高さに地面と平行になるように持ってください。
- ・ 力を加えているときにすべてのラインに均等に力がかかっていないければなりません。（デパワーラインにもステアリングライン、フロントラインにもたるみがない状態）
- ・ コントロールバーを左右平行に引くことができるようなら、コントロールシステムはインプレータブルカイトに取り付けることができます。



コントロールバーが均等な場合、カイト付属のマニュアル内セッティングの『カイトへの空気の挿入』を参照

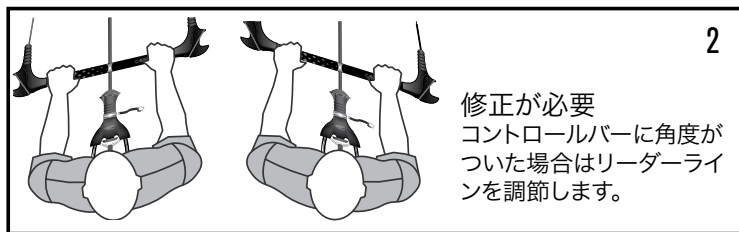
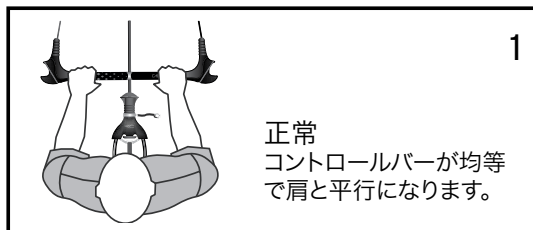
コントロールバーが均等でない場合、次ページのインストラクションに沿って操作してください。セッティング『ラインの調整』

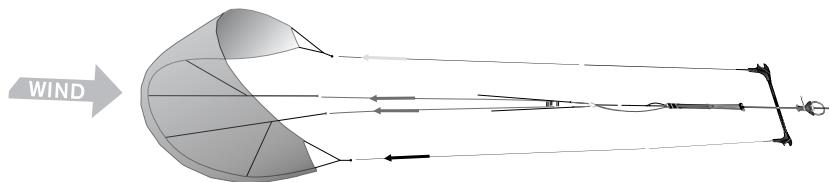
セッティング

ラインの調整:

ラインの長さの調整はカイトに接続しているフライングラインの端で行ってください。

- ・ フライングラインの1本が長過ぎる場合、ノットに接続されているラークヘッドを緩めた後、ノットをカイト寄りに移動させてください。これによってラインが短くなります。
- ・ ラインが短すぎる場合、ノットに接続されているラークヘッドを緩めた後、ノットをパー寄りに移動させてください。
- ・ ノットを閉め直しラインの長さをチェックします。コントロールバーが平行になるまで調節を続けます。
- ・ フライングラインにノットを作らないでください。ラインの寿命を縮めることにつながります。





ダウンウインド・セッティング(バーがカイトの風下にある場合)

カイトの風下側30mのところのところにバーを置きます。ウイングチップはバーの方向(リーディングエッジは風上方向)を向いています。カイトの風下にバーを置くとき、バーを上下逆にして置き、ラインを伸ばし始めます。コントロールシステムの赤色側は右に、グレー側が左に来るように設置します。

ブライダルを整えて配置します。

- ・ ステアリング(外側の)ラインをラークヘッド・ノットを使い、リアライン接続ポイントにある真ん中のノットにつなぎます。(図1-3)
- ・ デパワー(センター)ラインのノットをリーディングエッジまたはフロントブライダルの所定の位置にあるラークヘッド・ループに接続します。ステアリングラインと交差しないよう注意して行います。(図4-6)
- ・ 再びライン同士が交差せず、ねじれがないことを確認します。

カイトの飛行への準備は終了です。

安全に関するこのマニュアルの項を熟読し、コンディションをよく理解した上で海上に出ましょう。

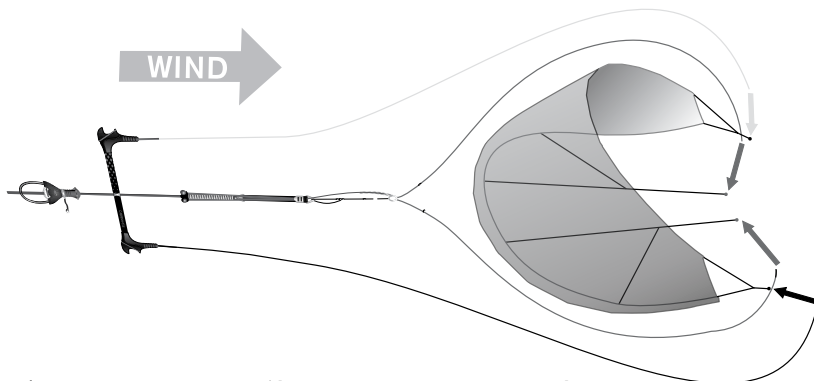
リア(ステアリング)
ライン



フロント(デパワー)
ライン



セッティング



ダウンウインド・セッティング(バーがカイトの風下にある場合)

カイトの風上側30mのところにはバーを置きます。リーディングエッジはバーの方向、風上を向いた状態で置きます。カイトのウイングチップはバーと反対方向を向いています。コントロールバーは通常の状態です。コントロールシステムの赤色側は左に、グレー側が右に来るように設置します。またL(左)とR(右)のマークが上向きにあることが確認できます。

- ・ ブライダルを整えて配置します。
- ・ ステアリング(外側の)ラインをほどこき、2本のラインを4フィートほど離して平行に、カイトの近くまで地面に置いていきます。(黄色いシートは左、黒いシートは右です)
- ・ ラインの間にカイトが入るくらい、ラインの間隔を広げます。
- ・ デパワー(センター)ラインの所に行き、それぞれが平行になるようにデパワーラインをステアリングラインの間に置きます。4本のラインが平行に並ぶ形となります。すべてのラインが交差したりねじれないことを確認します。
- ・ ウイングチップを風下に向け、ステアリングライン端近くにウイングチップが来るよう、カイトを置きます。そのためカイトはデパワーライン上に置かれるようになります。
- ・ カイトが砂や砂袋で固定されていることを再度確認してください。
- ・ カイトの外側にあるステアリングラインをウイングチップにある後方ブライダルに接続します。ラークヘッド・ノットを使い、リアライン接続ポイントとステアリングラインを接続します。ノットがしっかりと結ばれていることを確認してください。
- ・ カイトの内側にあるデパワーラインをラークヘッド・ノットを使って、フロントライン接続ポイントに接続します。ノットがしっかりと結ばれていることを確認してください。
- ・ 再びライン同士が交差せず、ねじれないことを確認します。

カイトの飛行への準備は終了です。

安全に関するこのマニュアルの項を熟読し、コンディションをよく理解した上で海上に出ましょう。



図1

2012クイックリンクIDS

クイックリリース・システム(QRS)

QRSを作動させたい状況に陥ったときに、ただちに操作できるよう、QRSの操作に慣れ親しんでおく必要があります。



図2

QRS 操作方法

リリースボディを握りピンが外れるまでボディを矢印方向に引きます。テンションがかかっている状態ならば、ピンがハーネスループからはずれません。(図1)この第一段階のクイックリリース(QR1)を起動させるには、IDSランディングラインによってカイトとライダーをつないだままにしておきます。



図3

カイトとライダーを完全に離すには、QR2を作動させる必要があります。P20と21のIDSランディングラインの項で詳細は説明します。



図4

QRS セッティング/セッティングのほどき方

- ・ コントロールタワーの上側部を持ってQRピンを滑らせてください。QR1本体にあるタブ部分を延ばし、QR2ヒンジと平行にすることにより、タワーとQR1本体が正しい位置にあることを確認してください。(図2)パーツが正しい位置にない場合には再接続できません。
- ・ デパワーメインラインの方向にQR本体を持ち上げます。(図3)
- ・ ピンを折り返します。
- ・ QR本体をQRピンとQR2ヒンジ、コントロールタワーにかぶせます。(図4)
- ・ これでQRシステムは作動する状態になります。

操作方法

安全ピン

ハーネスループはライダーが安全ピンを装備したデパワーシステムにのみ接続した場合に使用できます。この安全ピンは、ライダーがハーネスループにハーネスフックをかけているときにだけ作動します。そのためハーネスフックとハーネスループがしっかりと接続されていることが重要となります。正常に接続されている場合のみ、ただちにカイトをデパワーさせること、バーを自由に回すこと、簡単にカイトをリランチすることができるのと同時に、カイトとライダーが安全に接続された状態となるシステムです。

- 安全ピンはランチングの準備ができたときに挿入するか/バイパスリッシュを接続して使用することをお勧めします。

注意:安全ピンが挿入されているとき、ライダーはカイトと半接続状態にあります。安全ピンを挿入する前に、クイックリリース・ハンドルがどこにあるのか、どのようになれば作動するのか確認してください。

安全ピン 挿入

- QRとコントロールシステムがきちんとセットされていることをダブルチェックしてください。
- ハーネスフックをハーネスループにかけます。
- ハーネスループにハーネスフックをかければ後は安全ピンを挿入するだけで、ラUNCH準備が完了です。
 - オーバーライド・ボールを解除します。
- ハーネスフックのまん中に安全ピンを挿入し、安全ピンはハーネスループの下にあることを確認してください。正常に作動するために、ハーネスループはハーネスフックと安全ピンの間にある必要があります。(図1と2)
- 安全ピンがきちんと挿入されていることを確認してください。これによってハーネスフックが不用意にハーネスループからはずれることを防ぎます。安全ピンが正常に挿入されていることを確認したら使用開始です。

安全ピン リリース

手を使い、ハーネスフックから安全ピンを抜き取ります。(図3)



安全ピンの取り外し

- ・ ベルク口製のタブを完全に開きます(図4)。
- ・ クイックリンクのブリッジ差し込み口にタブを通します(図5)

安全ピンの接続

- ・ すべてのベルク口製タブが完全に開いていることを確認します。
- ・ 長いベルク口製タブをクイックリンクのブリッジ差し込み口に通し、その後ベルク口のもう片方の端を通します(角度をつけて引くと簡単です)(図6)。
- ・ ベルク口部分を安全ピンの所定の場所に戻します(図7)
- ・ ベルク口を閉じ、安全ピンの回りにしっかりと巻きまます。(図8)

図4



図5



図6



図7



図8



操作方法

パイバスリーシュ

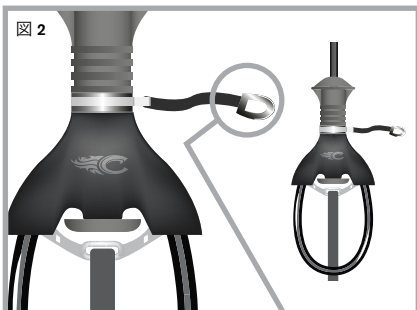
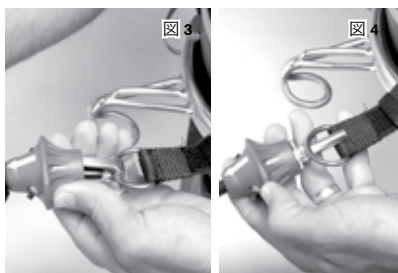
パイバスリーシュとは、ハーネスループからハーネスを外している時、ライダーがコントロールバーを離れた場合にカイトが勝手に飛んでいかないよう制御するものです。

パイバスリーシュの接続

- ・パイバスリーシュ端のクイックリリース部分はハーネスバーに接続されていなければなりません(図1)。
- ・パイバスリーシュのスナップフックをハーネスループ上部の台形パーツに直接接続して下さい(図2)。

注意

パイバスリーシュとライダーの接続を解除するためには、リリース端にあるQRを矢印方向に引くことによってQRを作動させる必要があります。(図3-5)



カイトがライダーから離れると、カイト自体が単体で風下に向かいます。ライダーを伴わないカイトは他の人を傷つける恐れがありますので、カイト単体にすることは最終手段と考えてください。また海上でカイトを離すことはカイトを持ち帰れない可能性があることを意味します。カイトを離す時には充分な注意と状況判断が必要です。

QRシステムとその他安全に関する全ての操作に慣れることがカイトを扱ううえで重要です。

リコイル

- 1) リコイルの操作は簡単です。スプリングによってオーバースライドIDSユニットを通常のライディング時にデパワーに最適な距離を保ちながら、必要なときにただちにデパワーできるシステムです。
- 2) コントロールシステムをスピンスさせるには、バンジー・マネージャーの近くまでバーを移動させます(図2)。バーから手を離すと、コントロールラインのねじれを自動的に解除するようバーが作動します。ねじれが解除されたらバーを持ち直してステアリングを再開します。バーを持ち直すときは、赤いグリップを左手で、黒いグリップを右手で持ちます。
- 3) 必要に応じたデパワー(第一段階のデパワー)をするときは、コントロールバーをバンジー・マネージャー・ユニットに押しこみ、バーをカイト方向に押して必要な量のデパワーを得ます(図3)。リコイルがデパワーが完了した時点で、バンジー・マネージャーを通常のライディング時の位置に戻します。

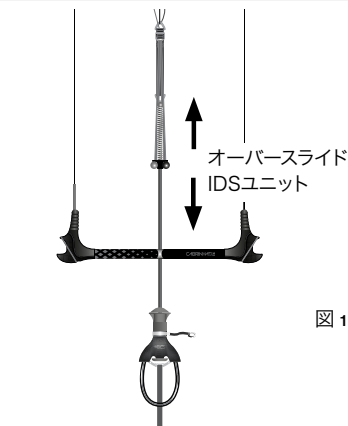


図 1



図 2

リコイルのスプリングのケアとメンテナンス

- ・ コントロールシステムとリコイルは使用ごとに洗います。ラインをバーに巻きつけたコントロールシステム全体を真水を貯めたバケツなどの容器に浸け、5分ほど浸けこんでおきます。湿気のない所で保管する前に十分に乾かしてください。
- ・ 保管時にはリコイルに加重がかからないようご注意ください。
- ・ ラインをバーに巻く時に、リコイルが曲がらないよう、ご注意ください。カブリナウェブサイト www.cabrinhakites.com のムービーページにて、ラインを巻くときの注意の項に詳しい情報を記載していますので参照ください。

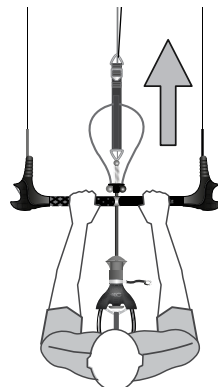
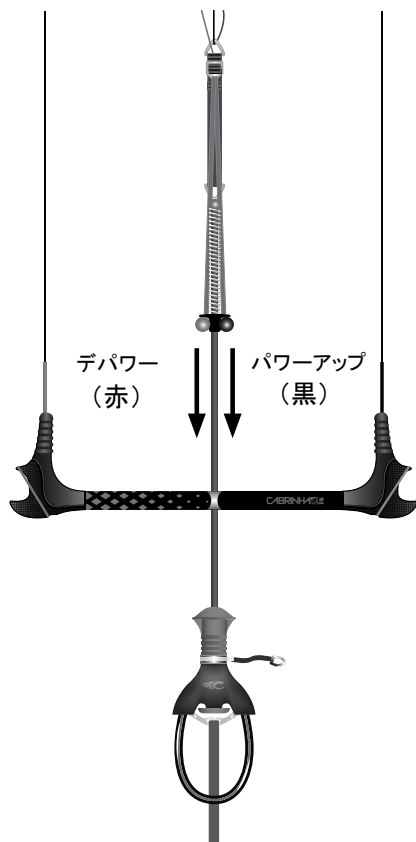


図 3

操作方法



センターライン調節ストラップ(CAS)

CASは赤いボールを引くことによってフロントラインを短くすることができる(若干デパワーします)システムです。黒いボールを引くことによってフロントラインを長くすれば(通常の状態に回復)カイトをパワーアップします。

- ・ デパワーするには赤いボールを引きます。
- ・ パワーを上げるためには黒いボールを引きます。

注意: CASはトリミングの幅を広げるもので、IDSデパワー機能とともに使用したり、その代わりに果たすものではありません。

クイックリンクのケアとメンテナンス

- ・ クイックリンク本体はこまめに真水で洗ってください。クイックリンクは真水を貯めたバケツなどの容器に浸け、5分ほど浸けこんでおきます。水に浸けている間はクイックリンクを回してください。保管する前に充分に乾かしてください。
- ・ ライディング前にクイックリンクに砂が着いていないことを確認してください。
- ・ 安全ピンがクイックリンクのブリッジ(P17図8参照)にしっかりと固定されていることを確認してください。
- ・ リーシュが正しい位置に、しっかりとクイックリンクに接続されていることを確認してください(P18図2を参照)。
- ・ 下に引いてリリースすることによってQR2を日常的に作動させてください。

IDSランディングラインの操作方法

IDSはブライダルとコントロールシステムを単純化して、段階に応じたデパワー機能をスムーズに行えるものです。ライディングしている最中のために要求に応じたデパワーを実現したり(ステージ1)、カイトをランディングさせるためのステージ2の完全なデパワーの2段階です。完全なデパワーは5本目のラインを用いたシステムと似ていますが、システムが複雑化する5本目のラインが必要ないものです。

必要に応じてデパワー: 第1段階のデパワー

操作方法:

要求に応じてデパワーするシステムを利用すればただちにカイトはデパワーします。コントロールバーをライダーから遠ざげることによってカイトはデパワーします。ライダーからバーを遠ざければ遠ざけるほどカイトはデパワーします。バーをCAS近くまで移動させれば(図1)、最大限にデパワーして空から落下します。これはライダーがカイトのパワーを回復させることができる、最大限のデパワーシステムであり防衛策といえます。

ステージ2完全なデパワー:

ステージ2の完全なデパワーはカイトをランディングさせる時やセッションを終わりにするときに使用します。水上陸上ともに使用できます。ただしこのシステムは要求に応じたデパワーに比べてリランチが難しいといえます。完全なデパワーはリーディングエッジの中央から対照的に折り曲げ、カイトの残留パワーをリリースするシステムです。

操作方法:

ステージ2の完全なデパワーのシステムを使用するためには、クイックリンク本体にあるリーシュ・コネクション・リングにバイパスリーシュを接続しておく必要があります。また水上にいる際にはQR操作に慣れ親しんでおくことも重要です。ステージ2の完全なデパワーはQRを作動させる(矢印方向に引く)ことのみによって行えます(図2)。QRを作動させるため

には、コントロールシステムがハーネスループから離れていること、IDSランディングラインに加重がかかることが必要となります。カイトはただちに最大限にデパワーし、完全に風を抜いた状態となって水上または陸上に落下します。カイトが安全にランディングしたら、2本のセンターライン沿いに歩き、素早くカイトに近づきます。その後カイトに砂をかけるか(陸上にいる場合)セルフレスキューを行います(水上にいる場合)。

カイトとの接続を解除

ステージ2の完全なデパワーを作動させているとき(QR1を作動させた後)、ライダーをカイトから完全に離す必要があります。その際、ハーネスループ側面にあるQR(QR2)(図3/4)も引く必要があります。

重要:カイトがライダーから離れると、カイト自体が単体で風下に向かいます。ライダーを伴わないカイトは他の人を傷つける恐れがありますので、カイト単体にするのは最終手段と考えてください。また海上でカイトを離すことはカイトを持ち帰れない可能性があることを意味します。カイトを離す時には十分な注意と状況判断が必要です。

IDSランディングラインの再接続

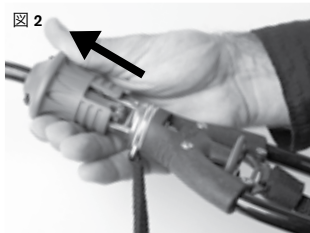
カイトと一緒に安全にビーチに戻ったら、次の使用に備えてランディングラインをリセットする必要があります。カイトに接続する時のようにラインを伸ばします。1本1本のラインをばらばらにしてそれぞれが平行になるように置きます。コントロールシステム・タワーにランディングラインを接続し直すときに、ラインが他のラインに絡んでいないことを確認してください。IDSランディングラインのループをQR2ヒンジアームの上に乗せます。(図5)QR2のリリースハンドルを引き、ピンがタワーに隠れるようにします。(図6)QR2ヒンジのアームを反転させQR2リングをタワー中央に向けます。(図7)QR2を離し、QR2リングをクローズした位置に保ちます。(図8)このマニュアル内P15にあるようにQR1をリセットします。

操作方法

☒ 1



☒ 2



☒ 3



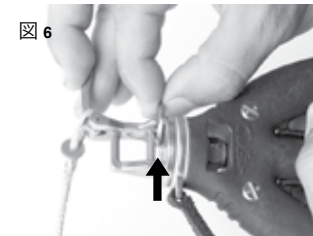
☒ 4



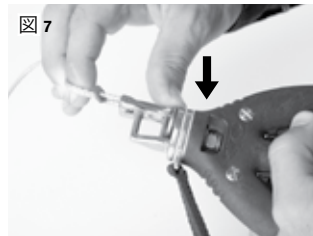
☒ 5



☒ 6



☒ 7



☒ 8



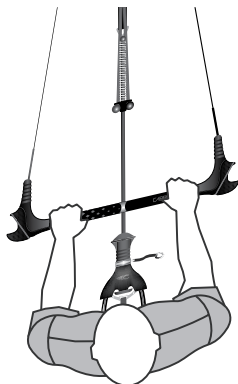
▲警告 ▲警告

ステアリング

以下は覚えて操作できるようにならなければいけないテクニックのリストの一部です。常にプロのインストラクターからレッスンを受け、体得するようにしてください。

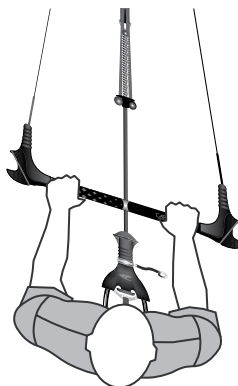
覚えておきたいキーポイント

- 陸上でカイト操作を練習している場合、カイトには非常にパワーがあるということを頭に入れておいてください。安全に十分に留意してください。まずカブリナのトレーニングカイトを使い、カイトの操作方法を体得し、その技術を充分にあげることをお勧めします。その後パワーカイトを使って、海上でボディドラッグを練習しましょう。
- 最初にカイトを飛ばす練習をする場合、カイトから目を離さないようにしましょう。
- ゆっくり操作しましょう。コントロールバーを急激に動かさないようにしてください。
- カイトのパワーを絶えず充分に考慮してください。
- 決して車のハンドルのように、コントロールバーを操作しないでください。カイト操作を困難にし、操作不能に陥る可能性があります。



カイトを左に移動させる方法

- 両手でバーを持ち、手を肩幅に広げます。
- カイトから目を離さない状態で、左手を身体に近付けるようにコントロールバーを引きます。
- これは左ひじを曲げ、右ひじを伸ばすような形になります。片方の腕を伸ばすことが重要です。同時に両腕を身体の方に曲げないでください。
- ゆっくりと操作します。素早い動きはカイトのターンのスピードを速め、より強いパワーを生みます。
- カイトがターンし始めたら、違う操作を加えるまでカイトは左回転し続けます。
- カイトをニュートラルポジションに戻す準備をします。



カイトを右に移動させる方法

- 両手でバーを持ち、手を肩幅に広げます。
- カイトから目を離さない状態で、右手を身体に近付けるようにコントロールバーを引きます。
- これは右ひじを曲げ、左ひじを伸ばすような形になります。片方の腕を伸ばすことが重要です。同時に両腕を身体の方に曲げないでください。
- ゆっくりと操作します。素早い動きはカイトのターンのスピードを速め、より強いパワーを生みます。
- カイトがターンし始めたら、違う操作を加えるまでカイトは右回転し続けます。
- カイトを他の位置に移動させる準備をします。



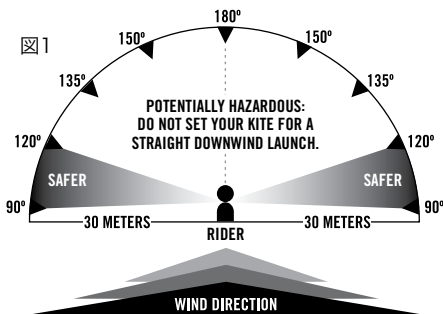
PAUSE!

カブリナ・カイトをセッティングする前に、付属のカイト・ユーザースマニュアルを参照ください。

カイト/コントロールシステム適応表とカイト・ユーザースマニュアルは以下のホームページから参照ください。WWW.CABRINHAKITES.COM

パートナーとのランチング

1. ランチングする前にクイックリリース・システムを使いこなせるようにし、必要なときに動作できるようにしてください。これらのシステムがきちんとセッティングされていることを確認してください。
2. 次にラインやギア、ランチング/ランディング場所をチェックし、それが万全ならばカイトをランチングする準備は完了です。カイトのランチングに影響するので、カイトにしっかりと空気が入っていることを確認してください。ランチング性能に違いが生じます。
3. ランチングする前にパートナーとライダーの双方が理解できる、リリースの時の合図を確認します。
4. バイパスリースを接続箇所に接続します。
5. 安全ピンをセットします。
6. 風下100度のところにカイトを持ってパートナーに立ってもらいます(図1)。
7. パートナーにはリーディングエッジの中央を持ち、リーディングエッジが垂直に風に向かうようにします。
8. パートナーはカイトの裏側に立ち、カイトの横や前に立たないようにします。
9. パートナーが決してブライダルやフライングラインに**触れないよう**、注意してください。
10. コントロールバーを胸の高さに持ち、フライングラインのたるみを取り除くために数歩後ろに下がります。
11. カイトを離すよう、パートナーに合図します。カイトがパートナーの手を離れた瞬間からライダーがカイト操作を行います。
12. **注意**:パートナーはカイトを上空に**投げてはいけません**。上空に投げられたカイトはその性能を発揮することができず、通常のランチングをすることができません。その際カイトは強すぎるパワーを発するか全くランチングしない状態になります。この方法は危険なランチングです。
13. カイトを離れたパートナーは、ライダーの風上に移動し、ライダーの妨げとならないようにします。
14. **ゆっくり**とカイトをパワーウィンドウの端に移動するよう操作します。**急激な動き**は避けましょう。充分にカイトをコントロールしながらゆっくりと移動させます。
15. カイトがパワーウィンドウの端に到達したら、背中から風を受ける状態でゆっくりと水際に向かいます。その際カイトを絶えずチェックしましょう。いつでもカイトの動きを把握しておく必要があります。
16. ランチングの際に少しでも不都合が生じた場合にデパワーするため、コントロールバーをライダー自身から遠ざける準備をしておきます。
17. **注意**:ランチングの最中に風が強ければ強いほど、全てがスピードアップして起こります。そのためにもゆっくりとした安全なカイト操作が不可欠です。
18. 障害物から充分な距離がある海上に出たら、オーバーライド・ストッパーユニットを装着します。その後はオーバーライド・ストッパーユニットの操作によって、カイトをただちにデパワーさせることができます。



ランディング

セルフランディング

21ページのIDSランディングラインの項参照

パートナーとのランディング

1. ランチングする前にパートナーにカイトの正しいランディングについて説明しておきましょう。
2. ランチング前に必ずランディングに必要なスペースを確保しておきましょう。
3. 上の内容を確認したうえで、水際に向かうときにも、ランディングの場所に人がいないことや障害物がないことを確認します。
4. 特にライダーの風下、カイトの近くや下に何かある場合、ランディングしてはいけません。人やペット、電線、木、その他障害物がない場所にランディングしてください。
5. 波打ち際に近づく際には、カイトをパワーウィンドウの端で海面に近い低い位置に保ちます。
6. ボードから下りて波打ち際までの最後の距離はボディドラッグで進みます。スピードをつけて波打ち際に近付いてはいけません。
7. ゆっくりと風上のパートナーのところにカイトを移動させます。
8. パートナーは風上方向からカイトに近付きます。
9. カイトが地面に付きそうになったところで、パートナーはリーディングエッジの中央部分を掴みます。パートナーはランチング時と同じ箇所を持ってください。
10. パートナーはブライダルやフライングラインを**持たない**よう、注意してください。
11. パートナーがウイングチップやトレーリングエッジを**持たない**よう、注意してください。ウイングチップやトレーリングエッジを持たれたカイトはフリップやスピンなど、回転動作を行います。この状態のカイトは扱いにくく危険です。
12. パートナーはカイトのリーディングエッジを持った後、カイトを持ったまま波打ち際から離れません。
13. パートナーはカイトを持ち続けるか、あるいはバテンを地面につけリーディングエッジを風上にして置き、砂や砂袋を重りして安全をはかった状態で地面に置きます。
14. カイトを安全に地面の置いた後、ラインを巻きましょう。

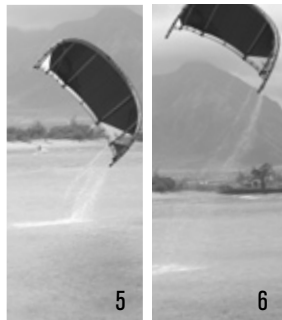
カイトのリランチング

重要な注意:リーディングエッジをはじめ、すべてのパテンにしっかりと空気が入ったカイトは、海上でのリランチが可能ですが、水に入る前にカイトに十分な空気が入っているか確認しましょう。

- カイトが水面に落ちた場合、ライダーの意志とは関係なくカイト自体がリランチすることを覚えておきましょう。カイトが水面に落ちた場合はその動きに対する心構えが必要です。
- カイトがフェイスから海面に落ちた場合、リーディングエッジとパテンは水に浸かります。この状態からカイトをリランチの状態にするまでの操作をまず行います。
- リア(後ろ)リーダーラインをライダーの身体方向に引きます。リーダーラインにコンスタントなテンションを加えてください。

注意:手にリーダーラインを巻かないように注意してください。また身体にもラインが巻つかないようにしてください。カイトのウイングチップを浮かせるためには2m程度のリーダーラインを引く必要があります。

- ヒント: ボードに足を乗せて身体の前にボードを置いてください。これによって身体が前に動く速度が遅くなり、素早くリランチできるようになります。
- ウイングチップが浮いてきたら、カイトはじきにひっくり返ります。
- カイトはひっくり返った後、ウインドウインドウの端に移動します。操作を加えてカイトをウインドウの端まで移動させます。カイトをリランチする直前まで、同じリーダーラインを持ったままです。
- 風が弱いときなど、カイトがウインドウインドウの端に到達するまで時間がかかります。そうした場合でもカイトの動きを妨げるだけなので、我慢できずにパーの両側を引かないでください。左右どちらでも、最初に選んだ側を保ちカイトが動くのを待ちましょう。
- カイト自体のリランチの準備ができたなら、リーダーラインを離しカイトを上空に上げます。ゆっくりとカイトを操作して上空に上げ、パーを水平に持ち上げましょう。また緊急時に備えてデパワーできるよう準備しましょう。



チューニング

カイトのチューニング

カイトにとって正しいチューニングは最高のパフォーマンスを引き出すために必須です。きちんとチューニングされたカイトはスピードアップし、デパワー機能も高まります。以下の項でライダーのスタイルに合わせてカイトをチューニングするためのガイドを紹介します。

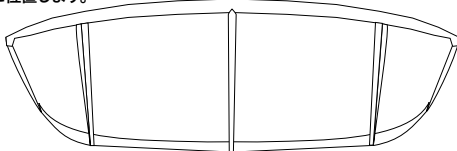
- ・ 全てのモデルにはステアリングとデパワーラインに正しくテンションをかけることによってそれぞれ理想的なスイートスポットが設定されています。チューニングはセンターライン調節ストラップ(CAS.)の微妙な調節によって行います。
- ・ デパワー機能を最大に引き出すためにはCASがバー上のデパワー範囲になければなりません。腕をいっぱい伸ばし腰を曲げている状態でライティングしている場合、赤いボールを引くことによってバーが身体に近づきます。
- ・ カイトの引き込み過ぎに充分な注意が必要です。ステアリング(後ろ)ラインにテンションがかかり過ぎると、カイトは失速し、風が弱い時には後ろ向きに走ることさえあります。また引き込み過ぎると、デパワー範囲にあってもシャットダウンのパワーを最小限にとどめてしまいます。
- ・ カイトを引き込み過ぎないようにご注意ください。カイトが空を横切っている時に、カイトから最大のパワーが生まれます。より強いパワーや素早い動きを求める場合は、ステアリング(後ろ)ラインにテンションをかけます。これはカイトを引き込むことです。しかしちょうど良い状態を通り越し、バックラインにテンションがかかり過ぎたカイトはゆっくりと上空で動き、パワーウィンドウの端に移動しないようになります。
- ・ カイトを頭上へ上げ、ハーネスループにハーネスをかけカイトを引き込みます。カイトを引き込み過ぎている場合、カイトはウィンドウにとどまり続けます。

注意：リフティングに注意してください。カイトを頭上に長い時間とどめておくことは、この現象が起こる可能性を増加させます。ライダーは身体を持ち上げられていると感じたならば、ハーネスで引くことを止めQRSを引く準備をしてください)

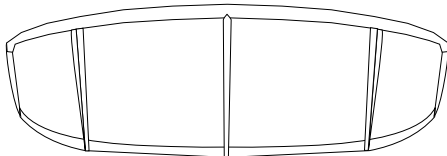
- ・ 引き込みを緩めパワーを下げる方法は、赤いセンターライン調節ストラップを効果が表れるまで引くことです。センターライン調節ストラップを引くとカイトのパワーは減少します。またデパワー・ループを使用してもカイトのパワーを減少させることができますので、センターライン調節ストラップだけを用いた操作を行わず、組み合わせて効果を高めてください。カイトのパワーを高めるためには、オーバーライド・ストッパーユニットにある黒いボールを引き下げてください。希望通りの効果が現れるまでCASを引くことによってカイトをデパワーさせます。CASを引くほどカイトのパワーは落ちます。希望通りの効果が現れるまでCASを引くことによってカイトをデパワーさせます。CASを引くほどカイトのパワーは落ちます。デパワー・ループを使ってもデパワーすることができるのでCASによってデパワーし過ぎないようにします。黒のパワー調節ボールを引くことにより、カイトはパワーアップします。

ニュートラル・ポジションのカイトはライダーの真上に位置します。

引き込み過ぎたウイングチップ
(後ろラインにテンションが
かかり過ぎた状態)



正しいチューニング



カイトボーディングや風に関して使われる言葉

トレーニングカイト

カイト・ボーディングに使用するカイトの動きをシミュレーションする陸上で使用する練習用カイト。非常に優れたトレーニング用の道具です。サイズは小さくても十分なパワーがあるので、使用時には注意が必要です。

インフレーター・カイト

浮力を持たせるように空気をいれたチューブのついたカイト。リランチングが簡単に行えます。

リーディングエッジ (LE)

カイトの前方にある空気を挿入できるチューブ。

パテン

カイトの外側を被うファブリック製の部位。空気を挿入しカイトの骨組みとなる内蔵ブラダーを被います。

ブラダー

リーディングエッジとパテンに内蔵された空気を挿入するチューブ。(自転車のタイヤのように内側に空気を入れるチューブが入るシステムになっています)

エアロック

カイトの一カ所から空気を挿入したり抜いたりできる、2つのパーツからなるバルブ。

スプリント

1カ所からスピーディに空気を挿入できる技術。

エア・クリップ

LEとパテンの間の空気を遮断しているクリップ。

エア・ディストリビューション・チューブ

LEブラダーとパテン・ブラダーをむすぶチューブ。

オーバーライド

通常のライディング・コンディションのときにコントロールバーの動きを制限するためにデザインされたシステム。カイトを大きくテパワすることなく、ローテーションの後、バーを回すことができます。テパワ・エクステンションと同じ働きもします。

QRSクイックリリース

ライダーが緊急時にリリースできるコントロールシステムです。QRSハーネスリーシュがライダーとカイトを接続し、緊急時に接続を解除できるようデザインされています。

QRSクイックリリース安全システム

コントロールシステム上のクイックリリース箇所が働き、ハーネスループとコントロールシステムが離れるシステム。メインQRとも呼ばれます。

QR2

2番目のクイックリリースはクイックリンク本体にあり、IDSタワーからランディングラインを外す時に使います。

クイックリンク

クイックリンクはモールド加工のハーネスループ本体とQR2ピンに付随しています。ライダーが素早くIDSコネクターをIDSタワーから外すことができるシステムです。クイックリンク本体はハーネスループの長さを調節する機能も備えます。

バイパスリーシュシステム

初めてカイトボーディングする人やスクールなど、ハーネスループを使えない人にお勧めの、オプションで取り付けられる安全なリーシュです。

コントロールバー

カイトを操作するとき用いる、ライダーにとってハンドルのような役割をするもの。

ブライダル

カイトのウイングチップとリーディングエッジから下がっているライン。カイトとコントロールバーをつなぐために用いるフライングラインはこのブライダルに結びます。

トウ・ポイント

ブライダルの接続箇所

リーダーライン

コントロールバーに直接つけるライン。バーとフライングラインを接続するために使います。

フライングライン

カイトに付いてくる4本すべてのラインの総称です。このラインはカイト付属のブライダルラインとコントロールバー付属のリーダーラインを結んでいます。通常20-30mの長さがあります。

ステアリングライン

カイトのトレーニングエッジにあるブライダルから出ている外側に付いた2本のフライングラインのこと。一方はカイトの左のウイングチップから、もう一方は右のウイングチップから伸びます。

テパワライン

中央に接続されている2本のフライングラインで、一方は

専門用語集

左のウイングチップから、他方は右のウイングチップのリーディングエッジから伸びます。このラインはカイトのデパワー機能に働きます。

センターライン調節ストラップ(CAS)

フロントラインとバックラインの長さを変えることによってカイトをデパワーさせるときに使用します。またバーの位置をライダーに近づける時にも使用します。

IDS

IDSはブライダルとコントロールシステムを単純化し、コントロールバーにあるハーネスラインとライダーをスムーズに変換できる2段階のデパワー機能をもたせたシステムです。

リコイル

回転系トリック後、ライダーがなじめをほどくときに、バーを一定の位置に保つことができる便利なシステムです。またバンジーアジャスターに加重をかけ、ライダーが届きやすい位置にバーを保つ働きもします。

ハーネス

つなぐ便利な道具です。これによってライダーは自分の体重を生かしながら、あまり力を使わずにカイトにぶら下がるようにライティングすることができます。もっとも一般的なのはウエストハーネス(胴部に着用するタイプ)とシートハーネス(胴部に着用し足の付け根に巻くタイプ)です。

カイトボーディング

パワーカイトを水上あるいは雪上で用いるスポーツ。

カイトサーフィン

パワーカイトを水上で用いるスポーツ。

ニュートラルポジション

ライダーの頭上ほぼ真上にカイトがあるポジションです。ライダーがバーを高く持ち上げると、カイトは自動的にニュートラルポジションに移動します。しかしこのポジションにカイトを保つことは難しく危険です。このポジションにあるカイトは安定していてパワーがないように感じられますが、地上にいるライダーをリフティングする可能性の高いポジションです。海上にいる時はボードを手繰り寄せている間に使いやすいポジションですが、陸上にいる時には極力このポジションを使用しないでください。ランチング後は素早く海上に出て、このポジションを避けることをお勧めします。陸上でのこのポジションは大変危険です。

ニュートラルゾーン

ニュートラル・ポジションを中心に左右に幅を広げたエリア。

飛行を開始するためにカイトを風上方向に向けるためのエリアです。この位置にあるカイトはパワーゾーンにあるカイトに比べてパワーや引く力が劣ります。しかし陸上やガスティなコンディションの時は特に、このゾーンにカイトがある場合は注意が必要です。

パワーゾーン

ライダーの前あるいは横にあたるこの位置のカイトは、ニュートラル・ポジションやゾーンと比べ、パワフルです。このエリアにあるカイトは最もパワフルで、ライダーを引く力が強い状態です。このエリアにあるカイトはパワフルで危険を伴うので、練習中のライダーは、できるだけこのエリアでカイトを使用することを避けましょう。カイトがこのゾーンにある場合、注意が必要です。

リフティング

リフティングはカイトがライダーの頭の上にある時に起ります。安定しない風によって突然ライダーを持ち上げる垂直な力がかかります。

ランチング

パートナーの手からカイトを上空に上げるライダーの動作です。

セルフ・ランチング

パートナーなしでカイトをランチングするテクニック。ライダーの準備が完了するまで砂や重りをウイングチップに置いて行きます。

リランチング

水面に落ちたカイトをライダーが操作し、再び上空に戻すこと。

ポテイドラッグ

水上にいるライダーがカイトを上空に上げながらボードを使わないテクニック。カイトの飛行を練習するために、ランチング後波打ち際まで歩き、海上で身体をカイトにひっぱってもらいます。カイトの飛行とリランチング、自己レスキューの方法を学びます。

ウォータースタート

ライダーが水中から立ち上がり、ボードに乗ること。

ジャイピング

ライダーが乗っているボードの走っている向きを変えること。スタポータックからポートタックに、またその反対に移ること。

ブレーニング

ボードが水面を滑走する状態。

ランディング

カイトを水面および雪面に着陸させる行動。

オーバーパワー

ライダーの能力や体重、体力、風のコンディションと比べ、カイトのパワーが強すぎる状態。

アンダーパワー

ライダーの能力や体重、体力、風のコンディションと比べ、カイトのパワーが弱すぎる状態。

完全なデパワー

完全なデパワーとはライダーが水上あるいは陸上にカイトをセルフランディングする際につかうIDSを用いた機能です。

リーチ

風向きに相対するカイトが動く方向。通常は風下に対して60から160度の方向。

ブロー

風(ブロー)が抜けた箇所。ガスティなコンディション風が特に強く吹いている状態を指す言葉。

ラフ

風(ブロー)が抜けた箇所。ガスティなコンディションでブローが抜けた風の弱い状態のことを言います。またカイトが完全にデパワーした状態にあることも言います。

サイドショア

陸に向かって左もしくは右から吹き、岸と平行に吹く風。カイト・ボーディングに理想的な風向き。

オンショア

陸から水面に向かって垂直に吹く風。この風向きの場合は水上や水際でのカイトの使用は禁止です。

サイドオンショア

水面の左もしくは右から陸に向かって吹く風。オンショアとサイドショアの間風向き。水面あるいは波打ち際でカイトを飛行させてもいい風向き。

オフショア

陸から水面に吹く風。水面や水際でカイトを飛行させてはいけない風向き。

サイドオフショア

陸の左もしくは右から水面に向かって吹く風。オフショアとサイドショアの間風向き。水面や水際でカイトを飛行させてはいけない風向き。

ガスティ

風がコンスタントに吹かず、強弱がある状態。

ダウンウインド

風下。風が吹いていく方向。

アップウインド

風上。風が吹いてくる方向。

リウォード

カイト・ボーダーの風下側。

ウインドワード

カイト・ボーダーの風上側。

ノット

スピードや風速の単位。海里に基づき計算される。

1ノット=1時間で1海里進む速さ。

1ノット=1.15mph

1ノット=1.85km

MPH

スピードや風速の単位。マイルに基づいて計算される。1mph=1時間で1マイル進む速さ。

ビューフォート風力級

風が起こす諸現象(波の様子、煙りの流れなど)によって階級をつけたシステム。このシステムによって風の強さを表す機械はあまりない。(0=なき~12=台風)

ボンブ

カイトに空気を送るための道具

バー(ユニット) 圧力の単位

・ 1 bar = 14.PSI

・ 1 mbar = 0.015 PSI

PSI

圧力の単位。ポンド / 1インチ四方

・ 1 PSI = 68.9mbar

コントロールバー

カイトを操縦するときにライダーが操作するパーツ。

